国際材料試験協会会務報告

会員工学士  近藤 泰夫*
工学博士  西原 利夫**

本会会務報告として1933年（昭和8年）9月に報告後現在の通信及び会務を取扱る報告申上候。

1. 1933年10月第9回常設委員会通報

開会に當り本会々員として多年奮力せられたるProf. A. Mesnagerの死に対し深齢なる弔意を表する旨会長Dr. W. Rosenhainより挨拶ありたり。

1) 調査委員会に関する現況報告

委員会の現在状況は下記の通り。今春委員会の報告は次回総会より6箇月前回も1933年3月迄に常設委員会に提出させられたし。

Group A.  Cast iron: Prof. Dr. F. Körber, Düsseldorf.
Notching toughness: Prof. Dr. F. Forelli, Roma. (参照)

Group B.  Hydraulic cohesive materials: Prof. Dr. J. Vandone, Milano.
Concrete—Impermeability, atmospheric permanency, heat phenomena, shrinkage: Prof. O. Graf, Stuttgart, aided by Prof. E. Swenson, Kopenhagen.
Concrete, reinforced concrete—Elasticity, plasticity, fatigue, strains, stability, change of form: Prof. F. Campus, Liége, aided by Prof. L. Bues, Brussels and Prof. Dr. W. Gehler, Dresden.

Group C. Wood and timber: Prof. K. Ryska, Brno.
Viscosity: Dr. G. Barr, Teddington.

Group D. Terminology of mechanical properties: Prof. H. Rabozée, Brussels.
Uniformity of gauging testing apparatus: Prof. Dr. R. Otzen, Berlin-Dahlem.

上記委員会の報告は既に第1回報告を提出せられたり。1934年1月迄には全委員会は何れも調査に着手せられ庶再報告することあり。

調査委員会終じて研究せるる結果以外の事項は常設委員会に於て取扱ふ。但し経済的困難あるため前回総会（1931年）に於ける通則事前第通報せざるべし。

2) 1935年ロンドン総会における討議題目

Group A. Metals (President: Prof. C. Benedicks, Stockholm)

1. Behaviour of metals as to mechanical influences (properties of strength and change of shape), chemical influences (corrosion), in interdependency of the temperature, especially at high temperatures.
2. Progress of structural metallography.
3. Light metals and their alloys.
4. Welding.

* 京都帝國大学教授
** 同 上
5. Workability—wear.

**Group B.** Nonmetallic anorganic materials (President: Prof. E. Suenson, Kopenhagen)

1. Concrete and reinforced concrete.
2. Erosion and corrosion of natural and artificial stones.

**Group C.** Organic materials (President: Dr. Ing. R. Barta, Prag)

1. Textiles.
2. Wood-cellulose.
5. Dyes and lacquers.

**Group D.** General questions (President: Prof. H. Rabozé, Bruxelles) 11. 参照

1. Relation between laboratory-test results and the experiences of constructional and building practice.
2. New progress of physics and chemistry and their meaning for our knowledge of materials.

2. **1934年2月1日 Prof. E. Suenson, Kopenhagen より来信**

第9回常設委員会の結果 **Group B** に於ては 1. コンクリート及繊維コンクリート，2. 自然石及人造石の風化及腐蝕，3. 燃焼製品の試験法の3題目を討議することを決定したりにより余は次の如き細目を挙げ各位の考観を

1. **Concrete and Reinforced Concrete**
   a. Laboratory Technique in Testing the Strength of Aluminous Cement.
   b. Laboratory Technique in Testing the Strength of Plastic Mortars.
   d. Sea-Water Cements.
   e. Integral Waterproofing Compounds.
   f. Shrinkage of Concrete.
   g. Creep of Concrete under Load.
   h. Vibrated Concrete.
   i. Cement Pipes.
   j. Influence of the Compressive Strength of Concrete and the Yield Point of Iron on the Degree of Safety of Beams.
   k. International Denominations in Reinforced-Concrete Calculations.

2. **Erosion and Corrosion of Natural and Artificial Stones**
   a. Corrosion of Granite.
   b. Corrosion of Tile.

3. **Testing Methods for Ceramic Materials**
   a. Strength of Bricks.
   b. Effects of Frost on Bricks and Roofing Tiles.

3. **1934年2月3日 Prof. Ing. Karol Ryska, Brno より来信**

1933年度常設委員会より木村に於ける調査委員会の主査を依頼せられたるに就て同問題に関し協力し得るの

11. 参照
4. 1934年2月23日 Dr. Ing. R. Barto, Pragより来信
1934年常設委員会にて決定のGroup Cに属する5題目に属する貫用委員を指名通知相原度。尚目的関し提出の論文題目を至急拜譲致願。

5. 1934年3月5日協会本部より来信
従来に常設委員会にて指示綴10個の調査委員会に属し委員の推挙事、各常設委員に基て配当相前度、特にロンドンの総会にて属する講演者及び講者を各分科会長（President of Groups）に御申出を乞ふ。

6. 1934年3月5日協会本部より来信
会費に関する件 會則第4条には個人会員会費の年額米貨2ドルとし記載し金貨ドルを以て支払ふことを要するのと雖も本協会起業期の事態は世界に於ける最も安定なる貨幣標準として之を用ひたることに有之候。誠には少くも1934年分会費は米貨ドルに換らず1金貨ドル＝5SFr.とする金貨ドルに換らんことを希望候。誠にスイス國会員はこの希望に向はれ候。

此為に関し貴下の意欲を伺ひたる上文を常設委員会に提案倣度候。

7. 1934年3月23日協会本部より来信
本協会第2次会長Monsieur Walter Rosenhain Dr. F. R. S.は1934年3月17日逝去され候。難局にあらる本協会2期にロンドン総会を開催せんとするに営りこの際大なる會長を失ふことは一同の哀情慎く能はざる所に有之候。

8. 1934年5月6日協会本部より来信
前任会長逝去により次期会長を就任時より選出されるべき候と思考候にかへてProf. Dr. Ing. h. c. P. Goerensに対し會長受難方交渉倣度貴下の意態相度候。

9. 1934年5月2日Doc. Dr. Ing. R. Barto, Pragより来信
下記題目に関しロンドン総会にて属する貫用講演者の指名を得度。
1. Textiles: a) Essais mécaniques
   b) Essais chimiques
2. Cellulose de bois: Détermination du poids ou le mesurage des fibres.
4. Vieillissement des matériaux organiques: Caoutchouc: a) Influences mécaniques
   b) Influences chimiques
5. Couleurs et vernis.

10. 1934年6月20日A. C. Fieldner, Washingtonより来信
Group C分科会長Dr. Bartoよりの指示に属じC分科第1部委員を依頼され候。就ては燃料試料採取及び分析に属する貫用委員を指名相原度且つ貫用に属する燃料燃料標準分析方法倣附相原度。

11. 1934年6月28日協会本部より来信
従来既営なくD分科会長としてProf. H. Rabozée, Bruxellesを、又同じくRésilienceに属する調査委員としてProf. Dr. P. Forcella, Romeを指名受請され候事に通知申上候。会長後進者に附して交渉中に有之候。
12. 1934年6月29日協会本部より来信

文部省材料試験学連（ASTM）の意を示す通文書を貴覧に供し参考と致候。

該文書には調査委員会に関する米国の観察を記し米国材料試験学連としては国際材料試験協会と協力を希望する意を明示せり（文書略）。

13. 1934年7月20日Prof. Dr. Pietro Forcella, Romaより来信

余はRéilenceに関する調査委員長を依頼せられたるにより同題目に関し取扱べき事項につき提案相図度。

且つ代表者1名の指名相願願。

14. 1934年10月第10同常設委員会議事報告

開会に當り前席宛Dr. W. Rosenhain及びハングリー材料試験学連S. von Zorkoczy氏並びベルリンダーレム材料試験所長本協会D. 分科連属調査委員長Prof. R. Otzenの各位の死亡を哀しむ意を表する旨副常会Prof. P. Goerensより挨拶ありたり。

1. 会務報告

Dr. W. Rosenhainの逝去は1935年ロンドン総会開催に対する除々なる打撃にして常務理事Prof. M. Rošは直ちにロンドンに赴き英会員と会議の結果Dr. H. J. Goughを常設委員として参加を乞い英会計今後の支持を要請せり。

2. 第12同総会の場所及び日時

英会員代表の資格に於てDr. H. J. Goughは次回総会を1936年に開催し得ること及び協会負債の整理されざる以前に於てロンドン比較開催することに異同せず。他場に開催させらるも参加せざる者を主催し同時に負債整理後は喜んで協会の意趣に哀し考慮すべき旨を敷べたるに於て設常設委員一同黙黙を表したり。同第11同常設委員会を1935年1-2月に開催し共表に議せる各委員の議註を決定し置くべきことを申合せたり。

本協会の将来の存続に関しは負債債務の能否によりて定まるべくその責任は常設委員会の負すべきものとす。分科会及び調査委員会は引き続き事情を効着せられたし。

15. 1934年11月7日協会本部より来信

協会は本日日本在住会員より下記の金額の受領を貴下に通知するの光荣を有し候。

SFr. 1255.

内訳

SFr. 498 サチュ・リヒ株に従ひた日本会員寄附
SFr. 767 = § 255 書籍記載の日本会員81名の会費

16. 1935年11月14日協会本部より来信（寄附便）

（前略）協会負債の償却に関し経済調査委員会の裁定によれば負債（日本）よりのスペジ寄付金額は1935年3月1日に有之候。

負債より支払いがされた寄附金額に対する代償として該金額をSFr. 60にて割りたる数だけのCongress-Book of Zurichを無償贈与するの議決を有せらるべくその議決は次下に一任致候。但し Congress-Bookは定価1冊SFr. 60（1部2冊SFr. 120）に有之候。

寄付証明の件は1935年1月1日に確定に解決されんことを望候。

本協会は今や重大なる事態にあるものと考へらるべくより全会員の協力により工学的研究の将来の発展のため又国際親善の強化のため奮力あるらんことを翼候仕候。